

**Bulletin**  
of  
**Center for Collaboration in Community**  
**Naruto University of Education**  
No.30, Feb, 2016

## Contents

## Original Papers

- 1 TAKAHASHI Makoto and SATO Takanori  
The Development of Blind Education as Social work  
: Mainly in Meiji Era and Taisho Era
- 9 TAKAHASHI Makoto and SATO Takanori  
Life History on the Interview Research Where Interviewer's Experiences Are Involved:  
From Narrative Analysis of a Blind teacher
- 19 MAEDA Yoichi and IJIRI Masayo  
What is necessary school into a team?  
Action Research for form teacher group which continues learning
- 29 Tahseenullah KHAN, MURATA Mamoru, OZAWA Hiroaki, KOZAI Takeshi, ADACHI Natsuko and NISHIMURA Hiroshi  
Active Fault System and the Related Seismicity in Pakistan
- 35 TAKEGUCHI Koji  
Consideration of the Learning on the Internet
- 45 TADA Sonomi and IKEDA Seiki  
Practical Study of Moral Lessons that are Based on the Moral Behavior Occurrence Model
- 55 HIROSE Shintaro, IKEDA Seiki and SAKANE Kenji  
"The Attempt of English Communication Lesson at Senior High School for Comprehensive Development of the Four  
Language Skills"
- 65 TOGUCHI Takuya and KASAI Makiko  
International Comparison of Educational Practices on Sexual and Gender Diversities
- 75 MORISHITA Sachiko and KASAI Makiko  
Novice Teachers' Process of Accepting Own Situations and Limitations of Competence
- 85 YUJI Hiroki  
Students' Satisfaction and Practical Ability of Early Childhood Education and Care
- 95 OBAYASHI Masafumi and SAKO Hidekazu and Fujii Isako  
A study on the characteristics of the ability that is necessary for performance of duties by the school manager  
— Through the analysis of “the ability recognition that has been got” and “the ability formation demand” of the A  
prefecture school manager —
- 105 TERASHIMA Yukio  
Academic Survey in Science for Pre-service Teachers of Science Education Course in a University for Teacher Training  
Using Problems from the National School Achievement Tests

鳴門教育大学  
学校教育研究紀要

## No.30

- 社会事業としての盲教育の展開  
—明治・大正期を中心として— 1 高橋 眞琴, 佐藤 貴宣
- 当事者参加型インタビューにおけるライフヒストリー  
—全盲教員のナラティブ分析より— 9 高橋 眞琴, 佐藤 貴宣
- 学校をチームにするには何が必要か  
学び続ける教員集団を形成するための実践的研究 19 前田 洋一, 猪尻 マサヨ
- Active Fault System and the Related Seismicity in Pakistan 29 Tahseenullah KHAN,  
MURATA Mamoru, OZAWA Hiroaki,  
KOZAI Takeshi, ADACHI Natsuko and  
NISHIMURA Hiroshi
- インターネットにおける学びとその問題の考察 35 竹口 幸志
- 道徳的行為生起モデルに基づいた道徳の時間の実践的研究 45 多田想能美, 池田 誠喜
- 高等学校英語授業の4技能統合化の試み 55 広瀬真太郎, 池田 誠喜, 阪根 健二
- 性の多様性に関する教育実践の国際比較 65 戸口太功耶, 葛西真記子
- 若年教師が自身の状況と力量を受容し困難な状況を乗り越える過程に  
ついて 75 森下左知子, 葛西真記子
- 地域連携事業に係る授業における学生の満足度と保育実践力 85 湯地 宏樹
- 学校管理職の職務遂行に必要な力量の諸特徴に関する研究  
—A県学校管理職の「獲得済み力量認識」および「力量形成要求」の  
分析を通して— 95 大林 正史, 佐古 秀一, 藤井伊佐子
- 全国学力・学習状況調査を用いたA大学学校教育学部理科教育専修生  
の理科の学力調査 105 寺島 幸生

1. 鳴門教育大学学校教育研究紀要(以下「紀要」という。)は、主として次の投稿論文を掲載する。
  - (1) 地域連携センター(以下「センター」という。)の客員研究員研究プロジェクト(以下「研究プロジェクト」という。)の研究成果である未発表の投稿論文
  - (2) センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
  - (3) その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
2. 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
  - (1) 本学の専任教員及び附属学校園教員
  - (2) 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
  - (3) その他センター所長が特に認めた者

ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生(連合大学院生を含む。)のうちいずれかとする。
3. 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
  - (1) 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
  - (2) 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
4. 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
5. 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
6. 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
  - (1) 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
 

また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
  - (2) 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
7. 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
  - (1) 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25mm、20mm、15mm、15mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
  - (2) 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル(英文)、著者名、所属と所在地、著者名(英文)、所属と所在地(英文)、抄録(200～400字)、キーワード(重要な順に3～5語)、アブストラクト(英文、200ワード以内)、キーワード(英文)を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組(25字×48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
 

本文の書体は明朝体(9pt)を標準とする。句読点は、原則として「,(コンマ)」と「。(句点)」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
  - (3) 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト(200ワード以内)、キーワード(重要な順に3～5語)を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組(48行×2段組、段間は10mm程度)で記す。
 

本文の書体はTimes(9pt)を標準とする。
  - (4) 氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は、和文及び英文原稿ともに、母国の標記の順序(例:日本語の場合はYAMADA Taro)とし、姓は大文字で表記する。
  - (5) 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体(9pt)全角で、英文原稿ではArial(9pt)で、次のようにする。
 

大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。  
 中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。  
 小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。

    1. …
      - 1) …
      - 2) …
      - 3) …
    2. …
  - (6) 図表
 

図(写真を含む)や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。

図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig.1、Fig.2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable1、Table2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体(9pt)、英文原稿ではArial(9pt)で、中央揃えとする。

写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人(研究費)負担とする。
  - (7) 参考文献及び引用文献
    - 1) 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
 

(例) GAGNE(1970b)は……  
 前田(1969)は、……。  
 ……と述べている(GAGNE, 1970b)。  
 ……と述べている(前田, 1969)。
    - 2) 文献は、投稿論文の最後に一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
      - ① 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名(書名)、巻(号)、ページ。  
 (例) 鳴門太郎(1900)、日本の学校、日本教育、16(1)、pp.1-10。  
 鳴門太郎:『日本の学校』、『日本教育』、Vol.16、No.1、pp.1-10、1990年。  
 『日本の学校』、鳴門太郎、『日本教育』、第16巻第1号、1-10頁、1990年。
      - ② 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。  
 (例) 鳴門太郎編著(1900)、日本の学校、日本出版、pp.1-200。  
 鳴門太郎編著:『日本の学校』、日本出版、1-200頁、1990年。  
 『日本の学校』鳴門太郎編著(日本出版、1990年、全200頁)
      - ③ 外国文献の単行本の場合は、編著者名(出版年)、書名、出版社所在地、出版社、ページ。  
 (例) NARUTO, Taro(1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
    - (8) 注記が必要な場合には本文の最後、文献の前に一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2)のようにして示す。
    - (9) 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
  8. 投稿は、文書ファイルを、社会連携課地域連携係までメール(chiiki@naruto-u.ac.jp)にて提出する。
  9. 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受け付けない。
 

なお、著者校正は初校のみとする。
  10. 別刷の費用は、個人(研究費)負担とする。

2015年度 学校教育研究紀要編集委員会委員

吉 本 佐雅子	地域連携センター所長
阪 根 健 二	教育連携コーディネート分野
藤 原 伸 彦	教育情報コミュニケーション分野

2015年度 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.30

発行年月	2016年2月
編 集	鳴門教育大学地域連携センター
発 行	鳴門教育大学地域連携センター 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748 電話 088-687-6101 FAX 088-687-6100
印 刷	(協)徳島印刷センター 〒770-8056 徳島市問屋町165 電話 088-625-0135 FAX 088-622-0734